

知行院便り

発行/宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



山門屋根の瓦志納について

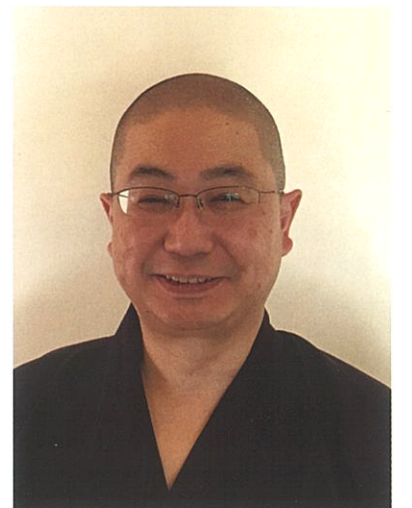
先日ご案内申しあげた知行院山門の「平成の大改修」ですが、既にたくさんの方に、山門屋根瓦のご志納申込みをいただいております。中間報告として、これまでお申し込みいただいた方のご芳名を、感謝の気持ちとともに掲載させていただきます。瓦には、ご志納いただいた方のお名前を記しますので、皆さまの志を末代までお伝えすることになります。亡くなった方へのご回向として、故人のお名前でお申し込みすることもできます。また、工事完遂の折には、改めて芳名版に御名前を刻し残させていただきます。お申し込みは九月までとなっております。詳しくは先日お送りした『平成の大改修』のパンフレットをご覧ください。

- ◆特別志納
 - 西尾幸太郎
 - 早川 彰
 - 早川浩雄
 - 早川セン
 - 廣田雅人
 - 森谷 要
 - 吉野富夫
 - 山田昌秀
 - 小沼仁人
 - 寺院企画サービス
- ◆特別瓦志納
 - 阿久津義雄
 - 安藤節子
 - 石井 正
 - 石井はま子
 - 石川斤一
 - 板垣和弘
 - 今井信也
- ◆瓦志納
 - 上村恭二
 - 内田直人
 - 内田玲子
 - 内海美佳
 - 海老沢位丹
 - 大塚智子
 - 大畑喜三雄
 - 小柏茂雄
 - 奥山正好
 - 加藤嘉穎
 - 香取キヨ子
 - 川邊敏雄
 - 木内秀行
 - 坂本雅則
 - 重田典史
 - 清水亨桐
 - 滝沢俊一郎
 - 滝沢紘治
 - 中村 豊
- 橋本 晃
- 橋本和江
- 橋本シゲ
- 橋本徳次郎(故人)
- 橋本利勝
- 八鍬静男
- 早川政美
- 春山夏子
- 春山光男
- 深山 寛
- 福井絹江
- 藤原昭博
- 牧内英明
- 村松昌康
- 湯田彰夫
- 新井久睿
- (順不同・敬称略)

五月二十四日現在

職員紹介

法務員の山田昌秀です。
お気軽にお声がけいただければ
幸いです。



今年の四月より知行院で法務をさせて頂いている山田昌秀です。静岡県浜松市の出身で、現在五十歳。昨年十二月に坂本ご住職の弟子となり、今年の四月に深大寺より知行院へ異動してまいりました。

知行院ご住職と初めてお会いしたのは今から約二十年前、深大寺の正月護摩法要の時であったと記憶しております。在家出身の私でしたので、当時は僧侶の事など右も左もわからない状況でした。その私を教え導いてくださったのが坂本ご住職です。

これが縁となり、以来知行院の護摩法要にも参加させて頂くようになりました。太鼓の練習をしたかった当時、思う存分太鼓を打つ機会や場所を快く提供していただき、また、護摩の事や僧侶の事など丁寧に教えて頂いたことを思い出します。

天台宗の教理は広く深く、生涯で学び尽くすことは困難なことかもしれません。ただ、一仏乗のみを信じて勉強させて頂きたいと思っております。

また、皆様の顔を一日も早く覚えられますよう努力しますので、お気軽にお声がけ頂ければ幸いです

ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

四月二十六日は「青年仏教徒の日」。東大寺大仏殿において、全国から宗派・地域をこえて多くの青年僧が集い、仏法興隆と世界平和を祈る「花まつり千僧法要」が厳修されます。昭和六十三年に第一回の法要が厳修されてから三十周年を迎えた本年も、八百名を超える青年僧が集い盛大に執り行われました。

この「花まつり千僧法要」は、仏教伝来千四百五十年を記念して始められたもので、聖武天皇による大仏開眼供養を現代に再現した、実に華やかな法会であります。

その昔、聖武天皇は、生命あるもの全ての幸福と安寧を願って大仏造立を発願され、文武百官、僧一人を招聘して仏開眼供養を行いました。五節・久米・櫛伏・踏歌などの歌舞によって彩られ、仏法伝来以降初めての盛大な齋会だったそうです。

私も十周年記念法要に参加して以来、毎年参加させて頂いていますが、特に主催者である全日本仏教青年会理事長在任中は、二度導師として盧遮那大仏像ご宝前でお勤めさせて頂く榮譽を賜り、大仏さまに圧倒され胸打たれた事が昨日の事のように思い起こされます。

東大寺様では大切な節目の大法要でのみ大仏殿唐破風からの大散華が実施されます。三十周年記念法要という事で出仕僧の読経の中一万余の散華が撒かれ、大仏開眼法要を彷彿とさせる見事な光景を目にする事が出来ました。

平成もあと残すところ一年を切っております。知行院「平成の大改修」も佳境に差しかかってまいりました。現時点では平成最後の日曜日にお披露目の齋会を計画しております。数百年先まで残す事業の完遂に大散華のような花を添えたいものです。

教えて、住職さん!

第四回 授戒会 (じゅかいえ)

お寺のこと、仏教のことで、知ってるようでよく解らないことを、ご住職にインタビューして、教えていただきます。第四回目は、授戒会について解説していただきました。

(聞き手 編集担当 薄井秀夫)

聞き手 今度、授戒会があると聞きしました。戒を授かる儀式ということですが、私たちも参加していいのでしょうか？

住職 もちろん参加できます。むしろお檀家さまの皆さまのための儀式です。前回、東京では平成十五年から十九年にかけて開宗千二百年を記念して七会場で実施され、知行院からも三十人のお檀家さんが参加されました。

参加者の皆さんは、戒を授かったことで、新たな気持ちで充実した日々を過ごせるようになったとおっしゃっていました。

聞き手 戒を授かる、というのは、どういう意味があるのでしょうか？

住職 戒というのは、お釈迦さまの弟子になる時に、つまり正式の仏教徒になる時に、仏さまに誓うものです。授戒会では、その戒を天台座主(ざいすう)猊下(げいか)から直々にいただくこととなります。儀式では、おかみそりをいただき、仏舍利(しゃり)を頭にいただくことによって、光が身体に入って仏性が芽生えるのです。

また、戒を授かったら、法名(戒名)もい

ただくこととなります。座主猊下から、法名をいただけるというのは、ほんとうにありがたいことです。

聞き手 戒というのは、どんな内容ですか？ 厳しいものなのですか？

住職 そんなに厳しいものではなく、ごくごく当たり前のことです。ただ、その当たり前のことをきちんを守るのが大切なのです。

戒の中でもっとも大切なのは、三聚淨戒(さんじゆじやうかい)と言われる撰律儀戒・撰善法戒・撰衆生戒(せんりつぎかい)の三つの戒です。撰律儀戒は「悪いことをしない」という戒、撰善法戒は「良いことをする」という戒、撰衆生戒は「人のために尽くす」という戒です。

中でも最初の撰律儀戒は重要なもので、具体的には五戒という五つの戒を守ることを誓います。

- 一、生きものを殺さない(不殺生戒)
- 二、盗みをしない(不偷盜戒)
- 三、みだらな行為をしない(不邪淫戒)
- 四、嘘をつかない(不妄語戒)

五、お酒を飲まない(不飲酒戒)

こうした戒を授けていただき、これを守ることを誓うのが、授戒会なのです。

聞き手 戒を授かることは、私たちにとって、どんな意味があるのでしょうか？

住職 戒について書かれているお経に『梵網経』というものがあります。そこには、「衆生が仏の戒を得れば、すなわち諸仏の位に入る。その位は、釈尊と同じである」と書かれています。つまり、私たちが戒を授かることで、仏さまと同じ境地を得ることができるといふことです。そして、今まで感じたこともなかった清々しい風や、香ばしい香り、心地よい音が聞こえてくる気持ちになります。授戒会を経ることで、日々の生活が、新しいものになるのです。

聞き手 法名をいただけるということですが、生きているうちにいただいて大丈夫でしょうか？

住職 法名は、亡くなった時にいただくものと思われていますが、本来は、こうして生前にいただくものです。

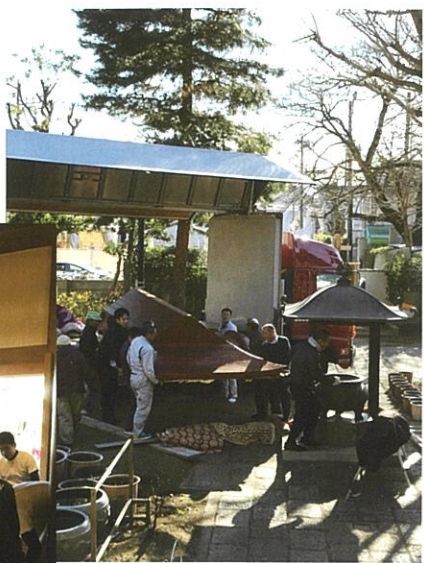
いつかはいただくことになるのですから、生きているうちにいただいて、仏弟子になったことを味わい、仏性を育みながら生きていくほうが、人生に深みが出て来るではないでしょうか。

本堂の宮殿が完成しました

知行院本堂の新しい宮殿が完成し、昨年十二月に知行院に搬入、最後の組み立てを行いました。約四十年前に本堂を建立する時の為に奉納していただいた地元喜多見のケヤキ材を使い、京仏師の吉田源之丞老舗が、三年間かけて製造したものです。

坂本観泰住職によると、「宮殿が新しくなって、本尊さまの顔がいつそう穏やかになったように見えます。仏さまもお喜びなのかもしれません」と言います。ご参拝の折にはぜひ、内陣近くまで寄って、仏さまの顔を拝むとともに、新しい宮殿を味わいながらお参りください。

※「宮殿」とは、本尊を納める厨子の一種で、浄土の楼閣を現していると言われています。奈良・法隆寺の玉虫厨子は日本最古の宮殿です。



屋根だけでも800kgあり、組立の際には、野球チームの子ども達にも手伝ってもらい搬入しました。



京仏師・吉田源之丞老舗の方々



完成した宮殿